

所属する組合はあなたを守ってくれるのか？

前号(かべ新聞第182号)「ボーナスカットに抗して闘いを宣言する！」と書いた。そしてあらゆる手段を駆使し闘うことを表明した。仲間の共に闘うのだ！

ところでユニオンの皆さんに聞きたい。「あなたの所属する組合はあなたを守ってくれますか？」……ユニオン組合員の退職が相次いでいる。つい最近もユニオン組合員のロッカ一の名前が外された。東海労の仲間がボーナスカットされるという理不尽な攻撃を受けたがそれを超える「退職という最後の選択」をしたという事だ。果たしてそれが本人の望んだ結果だろうか？退職されたこれまでのユニオン組合員のほとんどが退職する前に何らかの些細な業務上のミスがあった。偶然とは言えないだろう。それについて悩む組合員にユニオン役員はどう対応したのだろうか？「退職せずに・・」と組合役員は説得したのだろうか？ユニオン組合の本質が問われている。

労働組合は組合員を守る責任がある

重大ミスを発生させて業務から下されない限り、退職などを思い浮かべることなどないだろう。「ミスを犯しても反省はするが退職はしない」と皆さん思うだろう。しかし些細なことを含めてヒューマンエラーを発生させた時に会社から責任を問われ、挙句に進退を迫られたとしたらどうだろう。ひとりで悩み良い結果は生まれない。その時に所属組合が知らぬ存ぜぬでは誰が守ってくれるのだろうか？真剣に「あるべき労働組合を考えるべき」と思う。

東海労はこれまで組合員を守ることを第一に考えてきた。ボーナスカットに反対する闘いもその一つだ。そのために闘いを展開してきたし、これからも闘う。それが労働組合の存在意義だ。労働組合の質を見極め御用組合と決別することを真剣に考えるべきである！